

Šabbāt 安息日

金曜日の日没から土曜日の日没まで

シャブバート七1-2

(1) 安息日に関する大原則が定められている。安息日の原則を忘れて多くの安息日に多くの仕事をした人は、ただ一つの罪祭の罪を負うだけである。⁽¹⁾ 安息日の原則を知っていて、多くの安息日に多くの仕事をした人は、すべての安息日に対して罪祭の罪を負う。その日が安息日であることを知っていて、⁽²⁾ 多くの安息日に多くの仕事をした人は、そのおこなった仕事に対して罪祭の罪を負う。一つの種類の仕事に関する多くの仕事をする人は、一つの罪祭の罪を負うだけである。(2) 主要な仕事には四〇に一つを欠くだけある。種播くこと、耕やすこと、収穫すること、穀物を束ねること、脱穀すること、穀物をひること、穀物をきれいにすること、製粉すること、篩にかけること、ねり粉にすること、パンを焼くこと、羊毛を刈ること、それを洗うこと、それを叩くこと、それを染めること、紡むこと、織ること、二つの燃り糸をつくること、二つの織糸を織ること、二つの織糸を分けること、結び目をつくること、結び目を解くこと、二つの縫い目を縫い合わせる、二つの縫い目を縫い合わせるために裂くこと、鹿狩りすること、それを屠殺すること、その毛皮を剥ぐこと、それを塩づけにすること、その皮を仕上げる、それをそぐこと、それを裁断すること、二字を書くこと、二字を書くために消すこと、建てること、とり壊すこと、消火すること、火をともしること、槌で打つこと、一所から他所に持ち運ぶこと。これらが四〇に一つを欠く主要な仕事である。

(1) それら全部は唯一つの誤りにすぎない。

(2) 特定の仕事が禁じられていることを知らないでいた場合。